

令和7年度 第2回埼玉県地方独立行政法人埼玉県立病院機構評価委員会 抄録

日 時 令和7年12月1日（月） 14時00分～14時35分

場 所 WEB会議

出席者 【委員会】委員 井出 博生 東京大学 未来ビジョン研究センター
データヘルス研究ユニット 特任教授
委員 川島 弥生子 川島公認会計士事務所 所長
委員 栗田 美和子 株式会社デリモ 代表取締役 会長
委員 澤登 智子 埼玉県看護協会 会長
委員 水谷 元雄 埼玉県医師会 副会長

（五十音順・敬称略）

【病院機構】岩中理事長、浪江副理事長、竹田理事
池谷理事（循環器・呼吸器病センター病院長）
影山理事（がんセンター病院長）
岡理事（小児医療センター病院長）
黒木理事（精神医療センター病院長）
山口本部長

【事務局】縄田保健医療部長、坂医療政策局長
根岸保健医療政策課副課長

次 第

1 開 会

2 議 題

地方独立行政法人埼玉県立病院機構 第2期中期計画（素案）について

3 閉 会

発言要旨

1 開 会

公開及び傍聴の決定（傍聴者 1 名）

2 議 題

地方独立行政法人埼玉県立病院機構 第 2 期中期計画（素案）について

（澤登委員）

小児医療センター「特定行為研修指定研修機関として看護師育成に貢献」について、詳細を教えてください。

1 点目として、院外の方の受講を受け入れる考えはあるでしょうか。

2 点目として、院内で多くの特定行為の看護師を養成されると思いますが、例えば、令和 1 2 年度までに何名を養成する等の目標があれば教えてください。

（山口本部長）

特定行為研修は、令和 6 年 1 1 月から実際の講義を開始しており、昨年度の第 1 期生は 7 名であると聞いています。

（小児医療センター 中田看護部長）

院外の受け入れは既に行っており、1 回につき院内 5 名、院外 5 名の募集枠を設けています。

1 年に 2 回開講、10 か月のコースで実施していますので、院内では年に 10 名ずつ育成できており、このまま 10 名ずつ養成していく方向です。

院外は、第 1 期生が 2 名、第 2 期生が 1 名、現在、第 3 期生が開始したところですが、3 名参加していて、5 名まで枠があります。

院内としては、年間 10 名の育成を図っていくことを目標に取り組んでいます。

（澤登委員）

具体的に教えてくださいありがとうございます。

県内の小児医療の専門性を高めていくため、ぜひよろしくお願いいたします。

（川島委員）

「患者の視点に立った医療の提供」の「平日以外にも診療日を拡大」について、経営状態が厳しい中で、土日も診療を行うとさらに人件費や経費も増えていくと思いますが、それを上回る収入見込があるということでしょうか。そして、（その見込は）予算にも織り込み済みなのではないでしょうか。

また、「業務運営の改善及び効率化」の「診療材料の共同購入、医薬品の一括調達等による費用縮減」について、これらの取組は、今までも 4 病院において実施してきたものなのではないでしょうか。

(山口本部長)

平日以外の診療日ですが、土曜出勤の場合には、平日に振替休暇として、時間外勤務が多く発生しないよう工夫したいと考えています。

そして、土曜に患者さんが分散することにより、平日における診療の受け入れ枠が大きくなる等の効果も考えられます。平日に仕事等で病院に来られない患者さんや付き添いで病院に来ていただく方々が、土曜の方が都合が良いという話もありますので、基本的には、患者サービスの向上に繋がる取組となります。

患者さんの数が増えていくことについては、一定程度、予算に織り込んでいます。

また、「診療材料の共同購入、医薬品の一括調達等」は、これまでも取り組んできたものであります。共同購入の品目を増やすことや医薬品の一括調達、卸業者との価格交渉等の取組は、継続していきたいと考えています。

(川島委員)

土曜診療は、現在行っておらず、新しい年度から開始する計画なのでしょうか。

(山口本部長)

小児医療センターでは、既に年3回、祝日に開院しています。

これは、外来だけではなく、手術を含めてであり、平日とほぼ同じ形で開院しています。

ご家族にも非常に好評であり、小児医療センターは、頑張っているところであると思います。

今回、循環器・呼吸器病センターとがんセンターの2病院で試験運用するということで、一部の診療科から土曜の開院を始めています。

今後、徐々に段階的に診療科を増やしていく予定となっています。

(井出委員)

「人口減少・超少子高齢化への対応」の「…医療ニーズの変化に対応した機能や役割の見直し及び規模の適正化」について、今後どのような体制やスケジュールで検討していくのでしょうか。

(山口本部長)

人口減少により患者数が伸び悩み、これから増えない状況となる場合は、それに合った形で適正化を図っていく必要があると考えています。

ただ、一旦病床数を返してしまうと、戻すことは難しくなることや、(病床を)閉じたり開いたりすると、現場スタッフの負担も大きくなりますので、まずは段階的に進めたいと考えています。

現時点で明確なスケジュールは定めていませんが、まずはがんセンターで来年の早いうちに一部病床を休止して、様子を見るというのが当面のスケジュールとなります。

(井出委員)

病院機構全体の検討の体制やスケジュールは無いのでしょうか。

(山口本部長)

機構全体としては、これから患者さんの数の急激な伸びは期待できないことから、患者さんの推移を見ながら考えていきたいと思っています。

今の時点で、どの病院でどのくらい（病床を休止する）という具体的なスケジュールまでは立てていません。

(水谷委員長)

第2期中期計画（素案）について、本委員会として、概ね了解していただいたと判断したいと思います。よろしいでしょうか。

<各委員了承>

(水谷委員長)

本日の議題は終了し、これで委員会はすべて終了となります。委員の皆様には、大変お忙しいところ活発に御議論いただき感謝申し上げます。

4 閉 会